アリー・テミーゼル教授講演会

於東京ジャーミィ

2023 年 11 月 25 日（土）

（原文・ペルシア語、和訳・佐野　東生）

メヴラーナのクルアーンに基づく個性とメッセージ

テミーゼル教授：コンヤのセルチュク大学学術委員会メンバーの論考

神秘家、哲学者、政治家、詩人、ウラマーなど、人々に影響ある人々は独自の個性で知られています。メヴラーナはその作品、思想、生涯を通じ卓越した不滅の個性を示し、800 年にわたり東洋、西洋の人々、とりわけアナトリア（トルコ）の人々の心に生き続けています。

本当の政治とは人々の心にこそ基礎を置くものであり、本当のスルタンとは死後もその統治が終わらないものです。メヴラーナ没後 750 年たっても、この方の記憶は人々の心から去らず、その個性は神への従属、預言者のスンナの遵守と相まって忘れられていません。この講演では、メヴラーナの作品とこの方に関する情報を提供する一次史料に基づき、メヴラーナのクルアーン的個性とアイデンティティを研究します。

この講演ではまた、メヴラーナの成長した環境、その思想へのイスラーム思想の影響、クルアーンをどの程度利用したか、メヴラーナはクルアーンの注釈者だったか否か、および今日の世界におけるその思想の反映について解説したいと思います。

１）メヴラーナの霊性に満ちた環境

メヴラーナは完全な意味で学問的、イルファーン（神秘哲学）的、詩的な独自性を備えていました。この方は最初のイルファーン教育を父の下で受け、Seyed Serr-dan「神秘を知るセイェド」として知られるセイェド・ボルハーノッディーン・モハッケク・テルメズィーの下でも指導を受けました。そしてシャムセ・タブリーズィーと知り合ったのちのことです、愛の歌と神の喜びをもって再生したのは。

メヴラーナは愛の海におぼれ、詩と音楽に興味を持ち、シャムスの勧めでセマーを始めました。メヴラーナはその後、第二の人生で自らの驚き、熱情、歓喜、悲しみをこの方法で表し、安心立命を得たのでした。メヴラーナの目的は、真理への道において、神と預言者の慈悲が彼を人々の心に新たに根付かせ、イスラームの宗教を誠意と感情をもって愛の限界まで生活と混ぜあわせることでした。メヴラーナのこの誠実な意図と努力は彼の生きた時代にアナトリアからバルカン、北アフリカ、中東、インドに至る広範な地域に到達し、20 世紀初頭から自身の影響を全西洋世界、今日の現代世界に及ぼしています。

メヴラーナの宗教的、イルファーン的思想の源はクルアーン、ハディース、預言者のスンナです。メヴラーナは自身の詩で次のように謳っています：

私はクルアーンのしもべ、もし命あれば

私は権威あるムハンマドへの入り口の土だ
もしこの方以外にわが言葉を伝えれば
私は彼を厭い、この言葉を厭う
（ルバーイー　1331 番）

この詩編からわかるように、メヴラーナはイスラームの教養、預言者の伝記にふさわしいムスリムとして全人類に語りかけているのです。彼は哲学者、神学者らを理性のみを頼りとする人々として批判し、キヤース（類推）やただひとつの理由に基づいて結論を下すのは人を誤りに陥らせると述べます。メヴラーナの信念では、理性は現世のものごとには役立つが、それ自体の本性のため、人が神の真理、神との面会に至るのを阻害するものとなりえます。

メヴラーナは、神の愛は精神的な旅を必要とし、理性がうまく働かない分野のひとつが愛と（この旅の）旅程だと信じています。なぜなら、クルアーン（食卓章 54 節）に、「神は神が愛し給い、神を愛する人々を代わりとし給う」とあるように、源は神の愛であるといえます。

要すれば、メヴラーナは世界のすべてをクルアーン、イスラームの預言者ムハンマドのハディースから霊的示唆を得て表現しており、私たちもまた、メヴラーナの個性をクルアーンと聖なる預言者のスンナの枠内で評価すべきです。すなわち、メヴラーナはイスラームの偉大な学者、神秘家だったのです。

２）メヴラーナの思想的基盤をなすイスラーム思想

メヴラーナは神の存在への信念、そして神の聖なる本質への自身の志向性を次の詩編で謳っています：

我らを創造するのにご自身の姿からとられた、神は
我らの性質はかの御方の性質の先例から得たものだ
（マスナヴィー 4:1193）

メヴラーナは神の存在と唯一性、および唯一の拠り所とする創造主への信仰について、次のように謳っています：

おお神よ、我らの目は閉じられている
我らを許し給え、我らは重荷に耐えかねている
おお隠された方よ、あなたは東も西も満たし給うた
（夏冬）二つの日の出の地（Q55:17）より高く輝き給うた
あなたは我らの秘密を明かす秘密
あなたは我らの水流を湧き出させる源
おお存在が隠され、与え給うたもののみ見える方よ
あなたは水のよう、我らは水車のひき臼のよう
あなたは風のよう、我らは塵のよう
風は隠れ、塵は顕れる（以上アラビア語）

あなたは春だ、我らは香しい緑の園のよう
春は見えないが、その恵みはあきらか
あなたは命のよう、我らは手足の如し
手を閉じ、開くのは命により可能となる
あなたは理性のよう、我らはこの言葉の如し
この言葉は理性によりこの表現をなす
あなたは喜びの如し、我らは笑いだ
つまり我らは幸ある喜びの結果だ
我らの動きは瞬間ごとの信仰告白だ
つまり永遠なる偉大な方の証明だ
水車のひき臼の石が動揺して回るのは
水の流れがあることを証明するものだ
（マスナヴィー 5:3307-3317）

３）クルアーンを利用した作品創造と思想世界

クルアーンの注釈・解釈、クルアーンの節の引用や暗示による利用によって、メヴラーナが一冊の解釈書になるほどにクルアーンの節から利益を得ていたことが示されます。これに関して、いくつか例があり、以下その一部を紹介します。マスナヴィー第一巻 3167、3172、3181 節で、ヨセフの元に訪問した客に預言者ヨセフが求める逸話においてクルアーンの節が利用されています。

メヴラーナは次のように謳います：

またその魂は愛に消滅したとき
「種まく人を喜ばせる」（yu‘ujibu az-zurrā‘a）こととなる、種を播いたあとに
（マスナヴィー　1:3167）

この節はクルアーン 48「勝利」章 29 節を示唆し、イスラーム初期の時代を反映しています：

ムハンマドはアッラーの使徒。この方に従う人々は異教徒にはきつく、仲間同士ではいたわり合う。みなさい、彼らは腰をかがめ、ひれ伏して、アッラーのお恵みを乞い、そのご褒美を得ようとしている。彼らの礼拝の跡はその顔（額）にしるされている。彼らの譬えはトゥーラ―（律法）にあり、インジール（福音書）にある譬えでは、彼らは新芽をふき、どんどん芽を伸ばし、みるみる太くなり、茎がすっくと立って、「種まく人を喜ばせる」一粒の種のようだ。そのさまが不信心の者たちにはしゃくの種になろうという次第。アッラーは信心深く善行をなす人々にはお赦しとすばらしいご褒美を約束し給うた。

この節において、預言者とその教友の方々の状況がひとつの譬えで説明されています。ムスリムたちははじめて大地に埋められ、新芽がめばえ、次第に大きな軍勢にまで変貌した一粒の種なのです。イスラームの種をまいた人々はこのことを非常に喜び、ムスリムの

力を目の当たりにした異教徒たちは非常に怒ったのでした。

メヴラーナは次のように謳います：

「とうとうおまえたちは我ら（アッラー）の元に戻ってきた、ばらばらに」(ji'tumūnā furādā)、糧もなく

ちょうど「我らが創ってやったとき」(khalaqnākum)とまったく同じ姿で

（マスナヴィー 1:3172）

この節は死と死後を人々に考えさせるもので、私たちが神の前に差し出す贈り物について語っています。メヴラーナはこの節をクルアーン 6「家畜」章 94 節から引用しています：

とうとうおまえたちは我らの元に戻ってきた、ばらばらに、最初我らが創ってやったときとまったく同じ姿で。我らがおまえたちに授けてやったものをうしろに残してきてしまったようだな。おまえたちが仲間だと言っていた仲介者たちはここに見えないな。きっと彼らとおまえたちの間の絆が断たれ、おまえたちが主張していたものは消えてしまったのだな。

メヴラーナは糧もなく親愛な人、すなわち神の元に行くことはできないと語っています。

メヴラーナはクルアーン（2「牝牛」章 197 節）から利益を得て、神の元に贈り物として持っていける最善の糧を、タクワー（敬神）と説明しています。同様に、私たちがこの世で行う礼拝、断食、ザカート（喜捨)、善行、他人への親切、よい性格、サダカ（施し）の実施など、またその他多くのものごとが死後に愛される方、すなわち神への良い贈り物となることを述べています。

またメヴラーナは次のように謳います：

「アッラーの地は広大だ」(arḍ'llahi wāsi')（クルアーン 4「女」章 97 節）と言うのは知りなさい、預言者たちにとりいと高き広場のことと

（マスナヴィー 1:3181）

この物語の 3180 節で、世界は母の子宮に例えられ、死は第二の誕生と復活と説明されています。実際、私たちが引かれていく終の棲家はこの世よりはるかに広大なのです。続けて（先の 3181 節で)、クルアーン 4「女」章 97 節「アッラーの地は広大だ、どこへでも居を移せばよかったではないか」から引用されています。

そしてあなたが子宮のような世界から外に出れば

地から広大な広場に行くのです

（マスナヴィー　1:3180）

メヴラーナはこの物語の 3158 節の「彼（ヨセフの客人）は（ヨセフの）兄弟たちとその嫉妬の様を思い出させた」の句で、クルアーン 4「女」章 54 節を想起させます：「それともアッラーが他人にお恵みをたくさん与えるのが妬ましいのか。だが我らはすでにイブラーヒームの一族に聖典と叡智、偉大な王国を授けてしまった」

彼は兄弟たちとその嫉妬の様を思い出させた
ヨセフ曰く、それは鎖のようなもの、我らはライオン
（マスナヴィー 1:3158）

メヴラーナは3215節で、この物語の続きで客人がヨセフに、「私はあなたに鏡を持ってきました、あなたが自分の美しさを見るように」と言うのに対し、傲慢さを病気に匹敵する大きな過ちと認識し、クルアーン（7「胸壁」章12節）を引用して、悪魔イブリースがアーダムに跪拝しなかったのは隠された傲慢さであると説明しています。

イブリースの欠点は「私は優れています」（anā khayr）であった
そしてこの病は被造物すべての心にある
（マスナヴィー　1:3215）

なぜなら、クルアーンのこの節で次のようにあるからです：「アッラーは言い給うた「何がおまえを跪拝から妨げるのか、私が命じているのに。悪魔曰く、「私は彼（アーダム）より優れています。あなたは私を火から創造されましたが、彼を泥からお作りになったではありませんか」

さらにこの物語で語られるヨセフはヤコブの子で、イスラエルの民に遣わされた預言者のひとりです。預言者ヨセフには、正直者という意味のサディークという呼び名が与えられています。というのも、クルアーン（12「ヨセフ」章46節）に、「ヨセフ、ねえ正直者よ」と語られています。同様にヨセフは美しさ、きれいな姿で有名でした。ここに見られるように、メヴラーナは作品でクルアーンの預言者たちの逸話を利用しており、実際この物語で人々に有益な解説、重要なメッセージが伝えられ、ヨセフが人生で直面し、忍耐と努力で勝利した困難が語られています。このように、この物語はクルアーンのヨセフの章を私たちに思い出させます。

４）クルアーン解釈者としてのメヴラーナ

メヴラーナはクルアーンを神のメッセージ、指針の書としています。彼はタフスィール（クルアーン解釈学）を父バハーオッディーン・ヴァラドと師ボルハーノッディーン・モハッケク・テルメズィー、シャムセ・タブリーズィーの下で学びました。おそらくメヴラーナはダマスカス、ハラブでの勉学の際、他の学者のタフスィールを読み、特にタバリー、ザマフシャリーらの多くのタフスィールの書を研究したと思われます。すでに述べたように、メヴラーナはクルアーンのタフスィールを最初から最後まで書いているわけではありませんが、彼が作品で行っているその注釈は、彼がタフスィールの書を書くに値する十分な解釈者であったことを示します。メヴラーナがクルアーンを読み、理解する目的は、それを実行し、永遠の幸福と神の満足を得ることにあります。

メヴラーナはシャムセ・タブリーズィーとの交流のあと、顕教の学から身を引いて神の愛に入り、仲介をなくして目標に至りました。シャリーアをタリーカに結合させ、外面的教えを内面的教えに加えました。こうして、メヴラーナは彼に従うムスリムたちに創造の目的を見出し、それに従って実行させるように努めたのです。宗教の外面的側面、内面的

側面を明示し、クルアーンの節、ハディースをまず規則通りに解釈し、次いで場合に応じて応用的、暗示的解釈を行いました。

メヴラーナはクルアーンの節のうち、多くはクルアーンのエッセンスとして民衆の美徳、創造の目的について言及する部分に注目しています。メヴラーナは解釈のあり方が教訓、訓戒で、逸話の枠内でクルアーンの啓示と人間の魂の目的と関係する節を引用し、それらを通じ教訓を与えようとしています。彼はタフスィールの方法として、詩の枠内で、またクルアーンの節とハディースの枠内でイルファーン（神秘哲学）の主題の究明を行い、たとえ話を利用してクルアーンの節、ハディースのうち、忍耐、タワックル（神への依拠)、神の命への満足、禁欲、継続的礼拝、小食、少ししか眠らないこと、傲慢、欲望、現世の貪欲、地位への貪欲、神と人の真実、人の神との関係、人類の過去と未来、神の愛、魂の特殊性と重要性、悪魔と欲心の悪と穢れといったイルファーンの重要な主題について語るものを研究・究明しています。

下記のクルアーンのタフスィールにおけるメヴラーナの思想は重要です。

A）最も信用でき、正しいタフスィールの方法は、クルアーンによるクルアーンのタフスィールです。メヴラーナはこれに関し次のように謳います：

神（ハック：真理）の言をまた神によりタフスィールせよ
さあ、想像で空ごとを言うべからず、おお頑迷な者よ
彼が結んだ結び目は同じ人がほどける
彼が投げたさいころは同じ人が戻せる
あなたにかの言葉が簡単にみえても
どうして神の神秘が簡単であろうか
（マスナヴィー 6:2292-2294）

B）クルアーンの意味をクルアーンに専心し、愛する人々に問うべきです。メヴラーナはこれに関し次のように謳います：

クルアーンの意味をクルアーンに問え、それで十分
また欲望に火をかけた人に
クルアーンの前で犠牲となり謙遜する人に
ついにその魂がクルアーンとなるまでに
すべてバラの犠牲となった油は
あなたが望めば油のにおいもしよう、花のにおいも
（マスナヴィー 5:3128-3130）

C）クルアーンを自分の望むままに解釈してはいけません。こうしたタフスィールはクルアーンの意味を歪曲します。メヴラーナは以下の節で啓示が理性にまさることを示唆しています：

啓示の精神は理性よりもっと隠されていた
それは不可視であちら側にあるからだ

アフマド（ムハンマド）の理性はだれにも隠されていなかったが
その啓示の精神はどの魂にも把握できなかった
啓示の精神にふさわしいことがある、また
理性はそれがすばらしいとは気づかない
ときには狂気にみえ、ときには驚かされる
なぜなら（気づくのは）理性がそうまでなること次第だから
預言者ハディルの行いのふさわしさのように
モーゼの理性には濁ったものにみえ
ふさわしからぬものにみえた、その行いは
モーゼには、なぜならハディルの境地ではなかったため
（マスナヴィー 2:3240-3244）

５）メヴラーナ思想の絶え間ない反響

メヴラーナ・ジャラーロッディーン・ルーミーは 13 世紀のアナトリアに生き、マスナヴィー、『大詩集』（*Dīvān-e Kabīr*）、『ルーミー語録』（*Fīhi mā fīhi*）、『七つの講話』（*Majāles-e Seb'a*）、書簡集（*Maktūbāt*）の著作を後世に残しています。彼はこれらの著作を通じ、当時の人々に新たな希望を贈り物としてもたらしながら、クルアーン、ハディース、預言者のスンナに従った生活のあり方を教えようと努めたのでした。

メヴラーナが育んだ愛は、人間を崇拝される方に至らせ、クルアーンの倫理を守り、預言者のスンナに従うよう呼びかける神の愛と同じものです。

メヴラーナは 800 年にわたり、自身の著作と思想を通じてアナトリア、バルカン半島、中東、インド亜大陸、北アフリカなど世界各地に愛の種を撒いています。このため、今日メヴラーナへの関心が世界の東西、南北をとらえています。

メヴラーナはまた、この世に生まれるすべての人同様に死にゆく存在でした。そしてシャベ・アルース（結婚の夜）と呼ばれる日にこの世界から永遠の世界に移住し、自身の永遠で真実の愛される方と結ばれたのでした。彼は著作、思想、生き方において完成された人物で、800 年にわたり東西の人々、特にアナトリアの人々の心に生き続けています。

真の統治は心のうちに打ちたてられるもので、本当のスルタンは死後もまたその統治が終わらないものです。メヴラーナ没後 750 年が経ちましたがその記憶は人々の心から去らず、その名は神への臣従、神の使徒のスンナへの服従と一体化しています。ここでこのことをよりよく理解するため、メヴラーナの宗教的、精神的個性について簡単に説明しましょう。

メヴラーナは現世と来世の人間の幸福を、イスラームの教えに従った生活、心を悪い性質から浄化し、良く、高貴で美しく、神が認める特質で飾ることとみなしています。そしてクルアーン、スンナ、宗教の規則の必要性をこの道で成功するための根本条件と説明しています。同じ理由で、クルアーンの節の多くを著作で解説し、これらのタフスィールから抽出されるメッセージを逸話、たとえ話の形で再び語っています。

これに関し、メヴラーナは次のように語っています。

「船の帆が信仰の人にあります。帆があれば風が彼を良い場所に運びます。帆がなければ、言葉が、風となります。」

今日、つまり 1－2 年前、我々はある伝染性疾患（コロナ）に直面しており、世界が影響を受けています。この間、人類は多くの困難に直面しました。

メヴラーナは自著と自分の見解をもって多くの主題で明るく照らすランプのようで、様々な手段で当時の医学、病気の診断と治療法、医師と患者の関係、病気と人々の健康に関する信頼への対処法の説明を行っています。メヴラーナの見解では、医学は源泉が預言者の方々に至る啓示に基づく技術で、あらゆる病気には従うべき治療法があります。メヴラーナは私たちに私たちの病気に対する治療法を見出すように求めて、次のように謳います：

曰く、あなたが熱のある病気ならば
なぜ病院に行かないのか
あるいは親切な医者の家に
私はどこでも検査を受けるのに
（マスナヴィー　6:3850-3851）

伝染病コロナの開始から、トルコから医療援助の多量の物資が 160 か国近くの世界の国々、特にスペイン、イタリアに送られました。これらの物資の表に、下記のメヴラーナのマスナヴィーの節がトルコ語と送られる国々の言葉に翻訳され記されていました。トルコはこのメヴラーナの言葉を使って国際関係の舞台で暖かいメッセージを他国に送りました：

絶望のあとに希望に満ちる
暗闇を過ぎれば太陽に満ちる
（マスナヴィー 3:2924）

アメリカから日本まで様々な国々の人々はメヴラーナを愛好し、多くの研究をしています。2020 年 12 月 16 日、アメリカ人の女優のひとりが父の命日に、自分の才覚で公共メディアにおいて、メヴラーナのガザル 2577 番の第 3 節第 1 句の英訳を共有し、次のように謳っています：

自らの両手を開きなさい、もしあなたに寄り添ってほしいなら
土くれの像を壊しなさい、像の顔を見るためには
（ガザル 2577 番 3 節）

実際、今日では一人のキリスト教徒、ユダヤ教徒、無神論者ですらメヴラーナの逸話に影響を受けています。メヴラーナは、神が誰でも導くことを望まれていると信じ、他の人々を拒否して遠ざけず、彼らを引きつけるように努力しています。メヴラーナはマスナヴィーの「ムスリム、キリスト教徒、ユダヤ教徒 3 名の旅人の物語」で、すべての人々はお互いに友たりうると考え、謳います：

どの異教徒も軽蔑の目で見ないようにしなさい
なぜなら彼はムスリムとして亡くなる希望があるから
あなたは彼の人生の終わりについて何の知らせがあるのか
彼から顔を一度そむけたなら
（マスナヴィー 6:2451-2452）

20 世紀半ばから始まった翻訳と研究活動の多くで、メヴラーナは宗教を超えた人道主義者として紹介され、評価されており、イスラームの諸原典や情報に注意を払わないため、彼の実際の信条の理解がさまたげられています。それはクルアーン、ハディース、神の使徒のスンナに基づいています。

ヨーロッパのメヴラーナ研究者ピーター・フセイン・クンツは、神学、哲学、東洋学、社会学で広範な研究をする人々はイスラームに関する十分な情報がないと信じています。

西洋におけるメヴラーナの著作の反響の証拠として、西洋の専門家一部のメヴラーナに関する言葉を引用するのは有益でしょう。

フレデリック・リュッケルト：「我々は春の救いに満ちた息吹を待ち望んだが、あなたの芳香は西洋から東洋に達した、ああジャラーロッディーン！」

ハンメル・プルグシュタール：「私は東洋、西洋で見てきた多くのものを、メヴラーナのディーヴァーンに見出した。」

レイノルド・ニコルソン：「ジャラーロッディーンはダンテが生まれた数年後に没した。しかしこのキリスト教徒の詩人（ダンテ）は愛と倫理の境地で自身のムスリムの同時代人よりはるかに未熟だった。」

アーサー・ジョン・アーベリー：「メヴラーナの教えは明らかに神への愛を信じ、すべてのイルファーンの集まりで実現でき、すべての人々と数々の時代にとってかけがえのない遺産である。」

結論

世界を統治する諸体制の崩壊は、不平等、涙、不公正と道徳的立場からの疎外を人類に増大させています。全体として、世界、特にイスラーム諸国で多くの運営上の困難があります。今日、イスラーム圏は地理的に、人々が住居、祖国、家族、仕事、子供、パンと収入と人権上の自由から疎外されたままの第一の地域の一部となっています。メヴラーナはこれに関し、統治者についても人々についても、責任を想起させる大変良い教訓をもっています。というのも、メヴラーナは人々への奉仕を創造されたものへの奉仕と、そしてそれを創造主への奉仕と考えているからです。メヴラーナのメッセージはよく注目されたとき、現在と未来の共有の価値ある体制を形成するために人々を助けるでしょう。残念ながら、メヴラーナのメッセージはときに純粋に利用されず、ご都合主義者たちがそれから利益を得ています。そこでこうしたご都合主義的、利益追求的行為に対し、すべての人、特に学者、専門家、神秘家らはより純粋な努力をすべきです。

メヴラーナの目的は、真理への道において、神と預言者の慈悲が彼を人々の心に新たに

根付かせ、イスラームの宗教を誠意と感情をもって愛の限界まで生活と混ぜあわせることでした。メヴラーナの宗教的、イルファーン的思想の源はクルアーン、ハディース、預言者のスンナです。

クルアーンの注釈・解釈、クルアーンの節の引用や暗示による利用によって、メヴラーナが一冊の解釈書になるほどにクルアーンの節から利益を得ていたことが示されます。

メヴラーナはシャムセ・タブリーズィーとの交流のあと、顕教の学から身を引いて神の愛に入り、仲介をなくして目標に至りました。シャリーアをタリーカに結合させ、外面的教えを内面的教えに加えました。宗教の外面的側面、内面的側面を明示し、クルアーンの節、ハディースをまず規則通りに解釈し、次いで場合に応じて応用的、暗示的解釈を行いました。

ご清聴ありがとうございました。